

◆その他

平成27年度 看護学部FD研修会の報告

Faculty Development Workshops in Faculty of Nursing, Kobe Women's University

大谷 利恵 丸山 有希 浅葉 美知子 藤田 冬子 宇賀 昭二

Rie Otani, Yuki Maruyama, Michiko Asaha, Fuyuko Fujita, Shoji Uga

看護学部FD委員会が平成27年4月より実施した全15回の看護学部FD研修会について、実施した内容や受講者へのアンケート調査の結果と合わせて、検討した今後の課題について報告する。本年度のFD研修会は、教員のニーズを参考に内容を検討しながら、看護学部が開設年度であることや教育経験の短い教員が多いことなどを踏まえて、教員同士の交流の機会を多く持てるように工夫して実施した。FD研修会の出席率は平均96%、受講者アンケートにおける目標達成度は、「かなり達成できた」、「まあまあ達成できた」を合わせて平均90%、1年間の看護学部FD研修会に対する満足度調査においても、「かなり満足できた」11件(58%)、「まあまあ満足できた」7件(37%)で、教員の満足度は概ね高かった。しかし満足度調査の結果からは、経験年数が長い教員ほど満足度がやや低くなる傾向が見られた。またそれぞれの調査の自由記載の中には、研修会の運営改善を求める意見も含まれていた。これらの結果から、今後は幅広い経験を持つ教員それぞれが満足できるように更に内容や方法を検討し、研修会の運営方法の改善に努めていくことで、看護学部のFD活性化に貢献していきたいと考える。

キーワード：FD, 研修会
Faculty Development, workshop

I はじめに

平成27年4月に神戸女子大学看護学部が新設された。これに伴い看護学部FD委員会は教員5名により発足、年度目標を「教員の教育力、研究力を高める」と定めて活動を開始した。本委員会の活動の主である看護学部FD研修会(以下、FD研修会とする)は、看護学部教員の協力を得ながら、単年度で全15回実施することができた。本稿では平成27年度に行ったFD研修会について、受講者によるアンケート調査の結果などを用いて評価を行い、今後の課題を検討する。

II FD研修会に対する看護学部教員のニーズと実施状況

1. FD研修会に対する看護学部教員のニーズ

看護学部教員のニーズに沿ったFD研修会を企画していくため、第1回~第3回の研修会終了後、今後のFD研修会で扱ってほしい内容やFD活動に対する意見について自由記載する無記名のアンケート調査を行った。アンケートは、看護学部教員24名のうち研修参加者(第1回24名、第2回22名、第3回23名、延べ69名)に

表1:平成27年度看護学部FD研修会に対する教員のニーズ

延べ24名、()内は件数		
教育に関する内容 (26)	教育の方法について(16)	学生指導方法・関わり方に関する内容(10)
	教育について(6)	実習に関する内容(3)
研究に関する内容 (8)	本学の教育について(4)	授業に関する内容(2)
	研究の実際や方法について(5)	教育評価(1)
その他	各教員の研究活動を知りたい(3)	
	倫理的配慮(1)量的研究(1)	
私学の国試対策、学びのグループゼミの基本的な考え方(コミュニティオブプラクティス)、教育専門家の話が聞きたい、FDにはもう少し時間がほしい		科研費等申請書の書き方(3)

対して配布を行い、回収は延べ数24、回収率は35%であった。表1は、自由記載からFD研修会に対する教員のニーズと読み取れる部分を取り出した38件を内容別に分類したものである。この結果、教育に関する内訳は26件(68%)、研究に関する内訳は8件(21%)だった。教育に関しては、学生指導方法・関わり方に関する内容(「個々の学生に合わせた指導方法」「学生と接する上で注意しなければならないこと」など)、実習に関する内容(「実習教育について」など)、授業に関する内容(「効果的な授業展開の例について」など)、「教育評価」などの教育の方法についての内容(16件)、「教育学について知りたい」などの教育についての内容(6件)、「授業カリキュラムが知りたい」、「4年間で学生をどう育て

表2:平成27年度看護学部FD研修会の実施状況

	テーマ・講師	目的	日時	参加人数 /教員数	アンケート回 収数
第1回	「科研申請」の重要性について 講師:宇賀教授	4月から神戸女子大学看護学部を作り 上げていく大学人としての役割を理解 し、進むべき方向の手がかりをつかむ	平成27年4月16日 12:30~13:00	24/24名 (100%)	21/24 (88%)
第2回	「大学人として」 講師:野並学部長、宇賀教授		平成27年4月23日 15:00~15:30	22/24名 (92%)	19/22 (86%)
第3回	「大学人として働くこと」 グループワーク	大学人としての目標および課題を見出 す手がかりを得る	平成27年5月21日 15:00~16:00	23/24名 (96%)	21/23 (91%)
第4回	「教育における私の工夫1」 講師:玉木教授、藤田教授	教育の工夫を見出す手がかりを得る	平成27年5月28日 15:00~16:00	22/24名 (92%)	16/22 (73%)
第5回	「教育における私の工夫2」 講師:内教授、魚里教授		平成27年6月25日 15:00~16:00	24/24名 (100%)	18/24 (75%)
第6回	「Recovery From Disaster」 講師:Gren D.Edwards先生	災害によるトラウマと支援のあり方につ いて学ぶ	平成27年7月23日 14:00~15:30	20/24名 (83%)	15/20 (75%)
第7回	「科研申請について」 講師:内教授、田村准教授	科研の申請書の書き方を学ぶ	平成27年7月30日 15:00~16:00	23/24名 (96%)	17/23 (74%)
第8回	「学習を深めるグループ学習を授業に導入 する方法」 講師:大阪大学教育学習支援センター特 任助教 大山牧子先生	グループワークによる学習支援方法に ついて学び、教育力の向上を目指す	平成27年8月27日 13:30~15:30	24/24名 (100%)	23/24 (96%)
第9回	基礎学力調査から分かる本学学生につ いての報告会 報告者:ベネッセキャリア 富田有紀氏	学生の学力の状況を把握する	平成27年9月24日 14:00~15:00	24/24名 (100%)	23/24 (96%)
第10回	「学生教育支援について」 グループワーク	報告や前期の様子を踏まえ、学力差の ある学生に対する教育支援のあり方や 工夫について考える	平成27年10月15日 14:00~15:00	24/25名 (96%)	22/24 (92%)
第11回	研究活動交流会1	学部内教員の研究活動をお互いに知り 合うことで、各教員の研究力の向上をは かる	平成27年11月19日 13:00~15:00	24/25名 (96%)	22/24 (92%)
第12回	研究活動交流会2		平成27年11月26日 12:45~15:25	24/25名 (96%)	18/24 (75%)
第13回	「医療組織の知識創造と実践コミュニ ティ」 講師:大阪市立大学大学院 経営学研究 科 川村尚也准教授	実践コミュニティの概要を理解し、教育 の場での活用について考えることができ る	平成27年12月17日 13:00~15:00	24/25名 (96%)	21/24 (88%)
第14回	「看護学教育ワークショップの報告」 報告者:内教授	看護学教育について、マザーマップから 本学の現状を共通理解し、今後のFDに 活かせるようにする	平成28年1月14日 14:00~14:50	25/25名 (100%)	18/25 (72%)
第15回	「実習指導法の基礎～現場で人を育てる6 つの鉄則」 講師:大阪大学教育学習支援センター副 センター長 佐藤浩章先生	学生の行動変容を促す実習指導法につ いて学ぶ	平成28年1月28日 13:00~15:00	25/25名 (100%)	19/25 (76%)

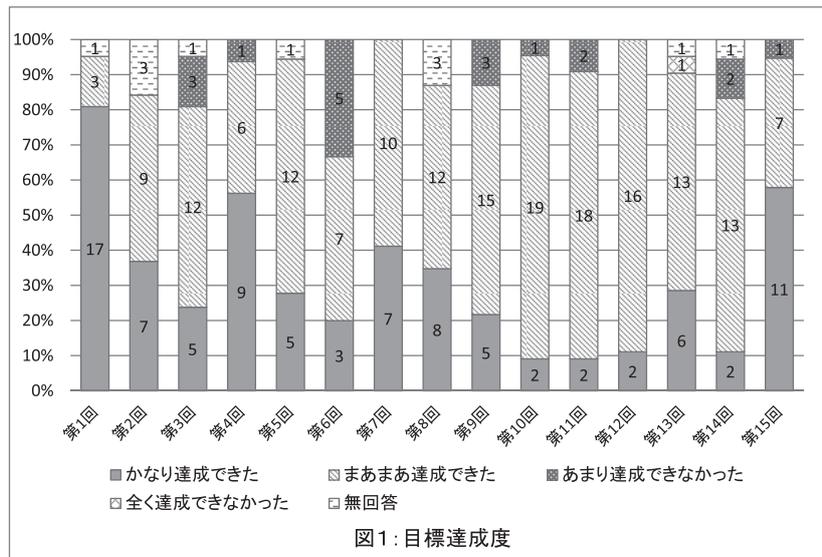
るかの意見交換がしたい」など、本学の教育についての内容(4件)に対するニーズがあった。研究に関しては、「研究のきっかけや経緯など研究疑問がどのようにできたのかを知りたい」、「各先生方の研究テーマを聞いてみたい」など、各教員の研究活動を知りたいとするものや、「倫理的配慮の実際」、「量的研究」など、研究の実際や方法についての内容(5件)、科研費等申請書の書き方について(3件)に対するニーズがあった。教育・研究に関する内容以外には、「昨今の私学における国試対策事情」や、本学部の特徴的な授業である『学びのグループゼミ』(1年生から4年生までの学生全員を対象とするゼミ形式の必須科目)の基本概念である「コミュニティ・オブ・プラクティスについて話し合う時間がほしい」という意見のほか、「教育の専門家の話も聞いてみたい」、「FDにはもう少し時間がほしい」などがあった(「」内は実際の記載)。

調査の結果から、教員のFD研修会に対するニーズは、研究よりも教育に関して高いことが分かった。また知識だけでなく、その実際の方法について知りたいとする意

見や、教員同士の話し合いを求めていることが推測できた。本年度のFD研修会は、これを参考にしながら企画、実施に努めた。

2. 平成27年度看護学部FD研修会の実施状況

平成27年4月から平成28年1月までに実施したFD研修会のテーマ、講師、目的、日時、参加人数(参加率)、アンケート回収数(回収率)を表2にまとめた。特に4~5月は、看護学部教員の交流の機会となるように月2回、その後は月に1回程度のペースで実施した。ニーズ調査の結果を踏まえて、大学における研究活動や教育活動の実際がイメージできるように、看護学部教員に講師を依頼したり、グループワークを取り入れたりすることで、ベテラン教員の経験を共有できる機会を多く持てるよう工夫した。研修会終了後には毎回、受講者に対して、目標達成度(かなり達成できた、まあまあ達成できた、あまり達成できなかった、全く達成できなかった、の4択)と、その理由や感想を自由記載する無記名アンケート調査を実施した。図1は、各回の目標達成度の割合で



ある。

Ⅲ 看護学部FD研修会の実施内容と受講者による評価

全15回のFD研修会の内容を、教育力向上のための研修、研究力向上のための研修、その他に分けて、それぞれについての内容と受講者のアンケート結果について述べる。

1. 教育力向上のための研修内容と受講者による評価

教育力向上のための研修は計6回実施した。ベテラン教員の経験を踏まえた教育内容や工夫についての講演(第4回,第5回),基礎学力調査の結果報告会(第9回)と教育支援についてのグループワーク(第10回),教員のニーズが高かった教育の実際的方法としては、グループ学習(第8回)と実習指導法(第15回)の研修を企画し、実施した。

1) 教育における工夫についての研修会

(第4回,第5回)

大学教育の経験豊富な看護学部教員4名が講師となり、「教育における私の工夫」をテーマにして、これまでの各々の教育実践や工夫について講演した。受講者の目標達成度は、第4回は「かなり達成できた」9件、「まあまあ達成できた」6件、「あまり達成できなかった」1件で、第5回は「かなり達成できた」5件、「まあまあ達成できた」12件だった。「かなり達成できた」と「まあまあ達成できた」を合わせた割合は、2回とも94%だった。アンケートの自由記載には、経験や工夫を具体的に聞いた(19件)、授業の工夫について学べた(5件)など教育について学んだとする意見や、学生への関わり方を学んだ(7件)、学生の個性を大切にすることを学ん

だ(6件)、学生が入学までに受けてきた教育を知った(4件)、学生が分かりやすいように伝えることが大切だ(4件)など、学生についての理解を深め、関わりについて考えたという記載が多くあった。また自分自身の振り返りの機会になった(8件)、自身の不安が落ち着いた(2件)などの意見もあった。

2) 基礎学力調査報告会と教育支援に関するグループワーク(第9回,第10回)

神戸女子大学では入学生全員を対象に、ベネッセコーポレーション株式会社による大学生基礎力調査を毎年行っている。本学部でも、学生の基礎学力・学習習慣などを明らかにするために、4月に調査が実施された。第9回は、「基礎学力調査から分かる本学学生についての報告」をテーマとする報告会を、第10回は「学生教育支援について」をテーマにして、学生への今後の教育支援方法に関してのグループ討議を実施した。

第9回の報告会は、担当者による報告を行った後に、教員の理解が深まるように質疑応答の時間を設けた。受講者の目標達成度は、「かなり達成できた」5件、「まあまあ達成できた」15件、2つを合わせると87%で、「あまり達成できなかった」が3件だった。アンケートの自由記載には、学生の傾向や学力が分かり、今後に役立たい(10件)という意見や、教育支援を考えなければならない(7件)との内容が多かった一方で、具体策が知らなかった(2件)、報告が分かりにくい(4件)という意見もあった。

第10回のグループ討議は、教員が4つの小グループに分かれて、第9回の報告と前期の学生の様子から考えた教育支援について意見交換を行い、全体で共有する時

間を持った。目標達成度は、「かなり達成できた」2件、「まあまあ達成できた」19件、2つを合わせて95%で、「あまり達成できなかった」は1件だった。自由記載には、具体的な方法が考えられた(3件)とする内容と、具体的な方法は考えられなかった(4件)の両方が見られた。しかし教員間での意見交換から様々な学びが得られた(6件)、今後の教育支援に生かしていきたい(5件)という意見もあった。

3) 学習を深めるグループ学習を授業に導入する方法についての研修会(第8回)

看護学教育の中でよく用いられるグループ学習の導入方法に関する研修を企画し、大阪大学教育学習支援センターの大山牧子特任助教を講師に迎えて、「学習を深めるグループ学習を授業に導入する方法」をテーマとした研修を行った。受講者の目標達成度は、「かなり達成できた」8件、「まあまあ達成できた」12件で、合わせて87%であった。アンケートの自由記載には、授業の取入れ方や目的、方法、ルール作り、事前事後学習などグループ学習について学べた(計20件)という内容がほとんどであった。また研修中はグループワークの時間も多く、他の教員との意見交換が参考になった(6件)、自身の課題や振り返りができた(3件)という意見もあった。

4) 実習指導法に関する研修会(第15回)

学生の指導方法や関わり方を知りたいという研修会ニーズが高かったことなどから、実習指導法に関する研修会を企画し、大阪大学教育学習支援センター副センター長の佐藤浩章教授を講師に迎えて、「実習指導法の基礎～現場で人を育てる6つの鉄則」をテーマとする研修を行った。受講者の目標達成度は、「かなり達成できた」11件、「まあまあ達成できた」7件、合わせて95%で、「あまり達成できなかった」は1件だった。アンケートの自由記載には、具体的に学ぶことができた(8件)、実践していきたい(7件)、実習・演習の指導について考えた(6件)、ほめること・叱ることについて考えた(4件)などの意見があった。

2. 研究力向上のための研修内容と受講者による評価

研究力向上のための研修としては、教員のニーズに基づいて、「科学研究費助成事業(科学研究費補助金)」(以下、科研とする)交付申請に関する講演を2回(第1回、第7回)、全教員が参加してそれぞれの研究活動について発表する「研究活動交流会」を2回(第11回、第12回)の計4回実施した。

1) 科研申請に関する研修会(第1回、第7回)

第1回は、科研申請を初めて行う教員も複数いることから、平成27年度「研究活動スタート支援」の交付申請前の時期に合わせ、研究経験の豊富な教員より「科研申請の重要性について」をテーマに講演を行った。受講者の目標達成度は、「かなり達成できた」17件、「まあまあ達成できた」3件、合わせて95%であった。アンケートの自由記載には、日本における大学の現状や大学教員の立場を知ることによって科研申請の必要性が理解できた(16件)、科研について理解できた(4件)という意見や、大学の現状や文部科学省の事業などを知ることができた(2件)、あるいは科研についてより詳しく知りたい(5件)などがあった。

第7回は、平成28年度の科研の交付申請の時期に合わせて、科研費獲得経験のある看護学部教員2名を講師に、より具体的な申請書類の書き方を中心とした講演を実施した。目標達成度は、「かなり達成できた」7件、「まあまあ達成できた」10件、2つを合わせて100%だった。自由記載には、具体的な方法やコツについて学べた(11件)、とにかく書いてみようと思う(4件)、日頃から少しずつやっていきたい(2件)など、申請に前向きな意見が多かった。

FD研修会后、看護学部の平成27年度「研究活動スタート支援」交付申請数は6件(対象教員7名)で、このうち約半数の3件が採択され、平成28年度の科研交付申請には、現在交付を受けている教員と助手5名を除くほぼ全員(13件)が申請しており、高い申請率となった。

2) 研究活動交流会(第11回、第12回)

看護学部教員それぞれがどのような研究活動を行っているのかを知り合い、互いの研究力を高めあうことを目的として全員参加の「研究活動交流会」を企画し、2回に分けて実施した。発表者は、助教以上の職位にある教員19名と修士課程での研究経験のある助手2名の計21名で、研究活動について発表7分、質疑応答8分で行った。写真は当日の様子である。発表時間が少ないため、過去の研究発表に用いた資料などを研修会前の1週間、会場に掲示するように工夫した。参加者の目標達成度は、第11回は「かなり達成できた」2件、「まあまあ達成できた」18件、「あまり達成できなかった」2件で、第12回は「かなり達成できた」2件、「まあまあ達成できた」16件だった。「かなり達成できた」「まあまあ達成できた」を合わせた割合は、第11回が91%、第12回が100%だった。アンケートの自由記載には、各教員の研究的関心事



写真：研究交流会の様子

や取り組みがよく分かった(14件), 研究やプレゼンテーションの手法が学べた(11件), 自分の研究に関して刺激や参考になった(8件), 今後の努力が必要であると感じた(5件)など肯定的な意見が多かったが, 研修会の趣旨や目的が分かりにくかった(5件), 時間が短い(3件)などの意見もあった。

3. その他の研修内容と受講者による評価

1) 大学人として働くことに関する研修会 (第2回, 第3回)

大学教育経験の短い教員が多いことから, 第2回は「大学人として」をテーマに, 教育経験の豊富な看護学部教員2名が, 大学教員として働くということに対する自身の考えや経験について講演を行った。第3回は, 第2回の講演を踏まえて, 「大学人として働くこと」をテーマに, 小グループに分かれて意見交換を行なった。第3回の研修会目標は「大学人としての目標および課題を見出す手がかりを得る」だった。第2回の受講者の目標達成度は, 「かなり達成できた」7件, 「まあまあ達成できた」9件, 合わせて84%であった。第3回は「かなり達成できた」5件, 「まあまあ達成できた」12件, 合わせて81%で, 「あまり達成できなかった」が3件だった。第2回の自由記載には, 大学人としてのあり方について理解した(9件), 大学人として今後の自分のあり方について考えた(8件), 大学人として研究の大切さを理解した(3件), 今後の研究の仕方について考えた(4件), 学生との関わりについて考えた(3件)などの意見があった。第3回の自由記載には, 目標や課題を見出すきっかけになった(8件), 目標や課題を見出すまではできなかった(6件)と目標達成については意見が別れ, 研修会の目標が分かりにくかった(2件)という意見もあった。しかし他教

員との意見交換ができてよかった(12件)と多くの教員が感じていた。

2) コミュニティ・オブ・プラクティスに関する研修会 (第13回)

「コミュニティ・オブ・プラクティス」は、『学びのグループゼミ』だけでなく, 本学部にとって非常に重要な概念である。そこで第13回は, 教員全員が基礎知識を持つことを目的に研修を企画し, 大阪市立大学大学院経営学研究科の川村尚也准教授を講師に迎えて, 「医療組織の知識創造と実践コミュニティ」というテーマで実施した。受講者の目標達成度は, 「かなり達成できた」6件, 「まあまあ達成できた」13件, 合わせて90%で, 「全く達成できなかった」が1件あった。アンケートの自由記載には, 実践コミュニティを理解する手助けになった(13件)とする意見や, 学びのグループゼミをはじめ, 教育のあらゆる場や臨床で活用したい(5件)があった。

3) 災害時によるトラウマと支援のあり方に関する研修会 (第6回)

FD委員会では, 英語力は今後さらに大学教員に必要とされる能力の一つであると考え, 研修の一つに, 英語による講演を検討した。そこで第6回は, 災害時によるトラウマと支援のあり方についての研究や実践を行なっているGren D.Edward先生を講師に迎えて, 質疑応答以外は通訳なしで, 「Recovery From Disaster」をテーマに講演を行なった。英語力には教員間でも差があることが予測されたため, 全員に対して, 事前に日本語訳付きの講演資料を配布し, 当日は質疑応答のみ看護学部教員1名が通訳を担当した。アンケートによると英語理解度は, 80%(2名), 70%(3名), 60%(1名), 50%(3名), 40%(1名), 30%以下(4名), 無回答(6名)だった。受講者の目標達成度は, 「かなり達成できた」3件,

「まあまあ達成できた」7件、合わせて67%で、「あまり達成できなかった」が5件だった。アンケートの自由記載には、英語での講義は難しかった(3件)とあったが、事前配布資料が役に立った(4件)との意見もみられた。講演内容については、災害支援について理解できた(4件)、今後の災害支援について考えた(3件)との意見があった。

4) 学外研修報告会(第14回)

第14回は、千葉大学看護学部で行なわれたFDマザーマップに関する看護学教育ワークショップに参加した看護学部教員からの報告が行われた。FDマザーマップの概要の説明後、本学部のFDマザーマップと研修参加教員のFDマザーマップが示され、今後の活用について提案がされた。受講者の目標達成度は、「かなり達成できた」2件、「まあまあ達成できた」13件、合わせて83%で、「あまり達成できなかった」が2件だった。アンケートの自由記載には、FDマザーマップが今後に生かせる内容だったとするもの(6件)や、自己の振り返りの機会になった(4件)、本学や他大学の傾向が分かった(3件)という意見があった。

IV 平成27年度看護学部FD研修会の評価

看護学部FD委員会では、本年度が学部開設年度であることや、教育経験の短い教員が多いこと、教員のニーズに関するアンケート結果などを踏まえて、看護学部教員間の交流や経験の共有などを多く取り入れたFD研修会を実施した。また研修内容には、教員のニーズが高かった教育方法、学生指導や関わり方について、科研申請書の書き方、看護学部教員の研究活動交流会などを取り入れて企画、実施してきた。本年度は授業数も少ないため、月に1~2回の頻度での実施に関わらず、毎回ほとんどの教員が参加することができた(平均96%)。目標達成度は、「かなり達成できた」「まあまあ達成できた」を合わせた割合の平均は90%で、全体としてはかなり達成度の高い研修会を行えたと考えられる。しかし項目別に確認すると、「かなり達成できた」は後半の方が少なくなる傾向が、「まあまあ達成できた」は後半の方が増えている傾向があり、目標達成の割合は低くなっているようであった(図1)。また受講者のアンケート回収率は、平均84%であるものの、図2に示すように、研修会によるばらつきが見られた。

本年度全体のFD研修会に対する満足度を知るために、最終の第15回研修会後に、平成27年度看護学部

FD研修会に対する満足度(かなり満足できた、まあまあ満足できた、あまり満足できなかった、全く満足できなかった、の4択)と、意見や感想の自由記載による無記名アンケート調査を全教員を対象に行った。調査用紙は第15回FD研修会後に配布し、回収数は19件、回収率は76%だった。教員の満足度は、「かなり満足できた」11件(58%)、「まあまあ満足できた」7件(37%)、「あまり満足できなかった」1件(5%)で、教育経験年数別に見てみると、経験年数が長いほど満足度が低い傾向があった(図3)。自由記載には、多様な内容が学べた(5件)、教育についての学びができた(4件)、大学教員としてのあり方が学べた(4件)、他教員と話し合う機会がもてて良かった(4件)、不安が軽減した(1件)など肯定的な意見が多かったが、回数が多かった(2件)、会議と同日にあるため他の仕事ができない(1件)などの意見も見られた。

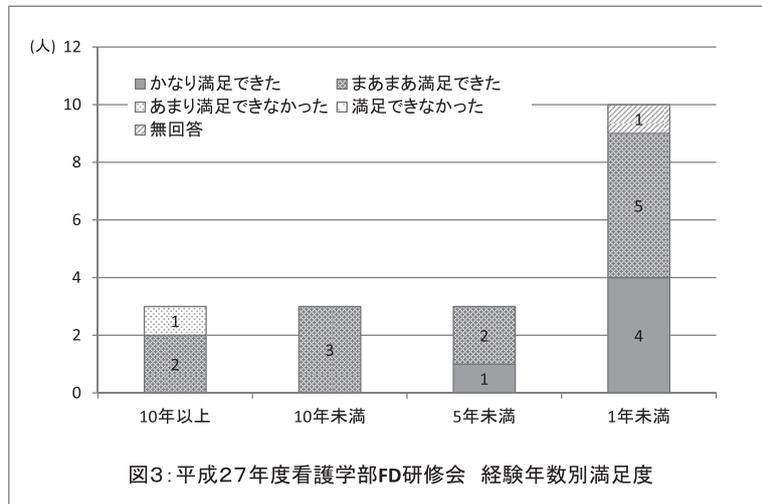
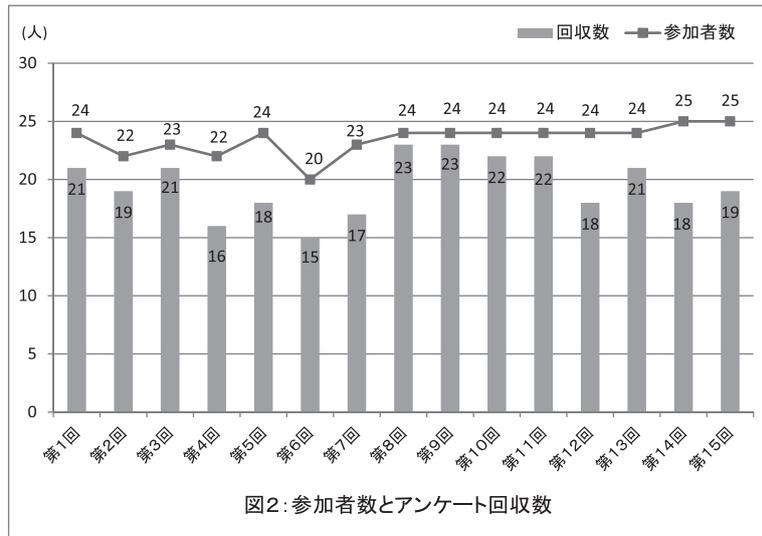
満足度調査の結果から、全体としては教員の満足度の高い研修会を実施することができたが、教育経験年数の長い教員の満足度がやや低い傾向があるということが分かった。

V 今後の課題

最後に、FD研修会の実施内容と受講者による評価、本年度の看護学部FD研修会に対する満足度調査の結果などから見えてきた今後の課題について述べる。

FD研修会の目標達成度や満足度が低い教員については、満足度調査の結果から、経験年数が長い教員が多いことが一因として考えられた。本年度は教育経験の少ない教員を主な対象としてテーマや方法を考えてきたが、今後はより幅広い経験年数の教員が満足できるように配慮することは課題の一つである。また受講者アンケートの中には、研修時間が短い、研修会の目的・目標が分かりづらいという内容の記載が複数見られ、これは達成度を下げる要因の一つであったと考えられる。このため、参加者の目標達成度や満足度を高めるためには、1回の研修会の時間の確保や、研修時間に応じた目標を考えること、目標を明確にすることなどの課題もあると考えられる。

目標達成度のうち「かなり達成できた」が、前半に比べて後半は減少していたことについては、満足度調査の意見にある「回数の多さ」や「会議と同日にあるため他の仕事ができない」といった理由による教員の疲弊が背景として考えられる。また受講者アンケートの回収率の



ばらつきにも、講演やグループワーク終了後にアンケートを記載する時間を十分に確保できないことや、すぐ後に会議が予定されていたことも少なくなかったことが影響しているのではないかと考える。来年度のFD研修会は回数を半分程度にする予定ではあるが、研修会の日程や時間を工夫すること、研修時間内にアンケートの記入時間を十分に確保することにも努めていきたい。

今後もこれらの課題を十分に検討しながらFD研修会を実施していくことで、教員一人ひとりはもちろん、看護学部全体のFDの活性化につなげていきたいと考える。

